

2019年度 米子北斗中学校・高等学校 学校自己評価表【分掌・教科・学年】

学校ビジョン	中学・高校の6年間の一貫教育を通して、自学自律の精神を養い、社会の各分野において指導的役割を果たしうる優れた人材を育成する
1. 能力・適性を伸張させ、知・徳・体の調和の取れた生徒をつくる(個々の能力を最大限伸ばしながら、「賢く自立した生徒」を育成)	
2. 自主学習の態度を養い、基礎学力の充実した生徒をつくる(学習の基礎を定着させ、授業・家庭学習を通して、自ら学ぶことのできる生徒の育成)	
3. 協調性・責任感を培い、たくましい精神力と体力を持った生徒をつくる(礼儀作法を身につけ、何事にも辛抱することを通して、自己判断・自己責任で行動できる生徒の育成)	

校訓
自学自律
本年度の学校目標
個々を伸ばす 6+α

【評価基準】 達成目標に対する達成状況を数値化(割合)し、100%~80%⇒A 80%~60%⇒B 60%~40%⇒C 40%~20%⇒D 20%~0%⇒E とする

【分掌】

	2019年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2018年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
総務部	PTA活動への支援が職務の大半を占めている。本来の学校総務として機能できていない。	■ 各分掌・学年の活動をサポートし、それぞれが充実した教育活動に望めるようにサポートする。	■ 探究学習成果発表会に向けた準備を学年団と協力して行う。 ■ 研修旅行・学年行事での外部交渉(折衝)に協力する。	■ 中1境港フィールドワーク、中2大山フィールドワーク、高1税に関する学習などの探究学習や、中3海外研修旅行と高2関西研修旅行の企画において、各学年の活動のサポートや準備段階の協力が出来た。	A	■ 12月の探究学習成果発表会に向けた準備を学年団と協力して行う。 ■ 学年の教育活動における外部折衝に協力する。	■ 中3海外研修旅行やゲストティーチャー授業、探究学習成果発表会などにおいて、各学年の活動のサポートができた。	A	学年の活動のサポートはできたが、各分掌の活動のサポートと連携をしていかなければならない。
教務部	進学校であるということを強く意識し、授業改革、学力強化を継続していく。	■ 授業改善、学習活動の活性化、学力強化につなげるための教務活動を実践する。(校内外の調査・模試・学力調査、進路結果等により検証する。)	■ PDCAサイクルを学習指導、授業改善の方法として取り組む。評価の仕方の工夫やそのフィードバックを工夫していく。 ■ 各種の学習や活動に振り返り指導をおこない、生徒個々のe-ポートフォリオにつなげていく。	■ アクティブラーニングを目標としたタブレット利用の教員研修会を2回実施。ICTを利用した授業出欠席等の校務効率化の試行、調査・模試結果等の検討をしている。	C	■ PDCAサイクルを構築する研修会へ参加、授業改善に役立てられるように各教員に伝達・周知していく。 ■ 各学年の行事や調査・模試などの学習活動後の振り返りを促していく。	■ 研究授業・高大連携校内研修会を実施し、授業改善・学力向上への認識を高めることができた。	B	各教科での各種研修会参加により、今後の大学入試改革に向けた取り組みの研究と実践が引き続き必要。
進路指導部	中学生の進路意識、関心の向上がまだまだ不十分であり、高校での進路目標決定の遅れにつながっている。	■ 要望に見合った進路情報の提供と、キャリア教育の充実に努め、中学生の進路意識高揚を促す。[講演会、説明会、懇話会等の実施回数で評価する。]	■ 大学・予備校・模試会社等の説明会、分析会等に積極的に参加し、情報収集に努める。適切な機会に適切な情報を提供する。 ■ 講演会、説明会、懇話会等を企画し、総合学習の進路探求に役立つ情報提供に努める。	■ 大学入試センター説明会、地元大学の進学説明会、模試会社の分析会に参加し、適宜情報収集できている。昨年は台風により延期した高3の面接セミナーも計画通り実施できた。	B	■ センター前の分析会等に積極的に参加し、適確な情報提供に努める。 ■ 講演会、説明会等の実施企業、講師等との連絡を密にし、本校の要望にあった催しとなるよう努める。	■ 諸事情により3月に計画していた卒業生進路懇話会が実施出来なかった。それ以外の行事は計画通り適宜開催出来た。(講演会、説明会、懇話会等の実施回数は年間9回)	B	講演会、懇話会等の開催に向け、早めに準備する。
生活指導部	問題行動が起こる件数は少ない。	■ 倫理観の育成と規範意識の向上に努める。	■ 外部講師による講演会、セミナーを実施することにより、倫理観の育成をはかる。 ■ 委員会活動の取り組みを活発にして学校全体の風紀向上に努める。	■ 生徒対象の講演会・セミナーを5回実施し、規範意識の意識向上を図ることができた。マナーアップ運動・門前指導では風紀・交通委員が中心となって活動を展開した。	B	■ いじめの解消や心のバランスの取り方を学ぶストレスマネジメントの講演会を新たに実施したい。 ■ 委員会活動の取り組みについて生徒自身がチェック・評価をする。	■ 講演会等予定したものは実施できた。遅刻指導対象の生徒はほとんどいなかった。門前指導やマナーアップ運動は地域保護者の協力をいただいた。	B	いじめ問題に関して、心のバランスやストレスマネジメントを専門とする適切な講師を選定して講演会を実施したい。
保健管理部	修繕や修復を必要とする箇所が多くある。	■ グランド整備や校舎内のペンキ塗りなど修繕・補修に努める。	■ 安全点検を行い修繕や補修が必要な箇所は適宜行っている。 ■ 昨年できなかったペンキ塗りを実施する。	■ PTAの協力により、除草作業とグランド整備を行った。	B	■ 安全点検の実施により、修繕や補修が必要な箇所が出た箇所については、適宜実施していく。	■ 安全点検の実施により、不具合のある場所があったので修繕できる箇所については既に修繕作業を終えた。ただ、大きな改修や修繕についてはまだ手が付けられていない。	B	地震対策(戸棚の固定など)や器具の破損による改修(鉄棒など)ができていないので、次年度は少しずつしていく必要がある。

	2019年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2018年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
生徒会指導部	執行部を中心に自主性が発揮され、学校行事の内容を刷新しようとする機運に満ちている。	■ 執行部と執行委員が主体的に考え、活動する場面を増やす。	■ 生徒会役員と執行委員が定期的に執行委員会を開くことで、行動目標をはっきりさせる。 ■ 学校行事の役割を分担させ、行事を牽引する責任感を持たせる。	■ 本年度北斗祭体育の部では、実行委員を募集せず、その仕事を執行委員で分担して行った。前期は、6度執行委員会を開き、それぞれの執行委員が、責任を持って自分の仕事を行った。	B	■ 定期的に執行委員会を開くためには、年間を通して執行委員の各学校行事における役割を、はっきりさせる必要がある。 ■ 引き続き、学校行事における執行委員の役割分担をさせ、責任感を持たせる。	■ 北斗祭では、今年度文化の部が無くなったため、実行委員を募集せず、執行委員で役割分担して北斗祭の運営を行った。 生徒会役員、執行委員が協力して北斗祭を運営できた	B	前期の生徒会は、担当する行事も多く、積極的に活動出来た。しかし、後期になると、行事も少なく前期に比べ活動する機会が少ない。自分たちで何か企画したりなど、積極的に活動出来るよう工夫することが必要。
人権教育部	生徒・教職員・保護者が一体となった人権教育を、さらに工夫・改善していく必要がある。	■ PTA人権教育部と連携し、人権教育に関わる行事等を企画・実施する。	■ PTA人権教育部内の役割分担を、第1回評議員会後の部会で確認する。 ■ 各行事について、PTA担当者との連絡を密にする。	■ PTA人権教育部と連携し、10月12日の人権講演会の準備を進めている。 「PTA人権部だより」第74号の編集作業をPTAと教員とで分担して行い、予定通り発行した。	A	■ 「PTA人権部だより」第75号の発行に向けて、PTAと連携しながら準備する。	■ 10月12日(土)に予定していた講演会は、警報発表に伴う臨時休校で中止となった。「人権部だより」は学期末に発行した。	A	PTA人権教育部との連携をさらに深めていくため、人権教育部内での役割分担を再検討する。
事務部	来訪者及び電話の対応、その他対外的にまだまだ改善出来ることがある。	■ 丁寧な言葉遣いや対応を心がける。	■ 迅速で丁寧な対応をする。 ■ 電話3コール対応、保留時間の短縮に努める。	■ 電話対応、来客対応等について、外部からのクレームは無く一人一人が丁寧な対応に努めている。保留時間短縮にも気をくばっている。	B	■ 笑顔での対応、丁寧な言葉使いを心がける。 ■ 引き続き内線、校内放送等適切な場所への迅速な連絡を心がける。	■ 電話対応、来客対応等について、外部からのクレームは無く一人一人が丁寧な対応に努めた。 保留時間短縮にも努めた。	A	引き続き失礼のないよう迅速かつ丁寧な対応を心がける。
特別支援委員会	職員会議後の各クラスの状況報告により情報共有は出来ているが、具体的なアセスメントや支援方法の共有にまで至っていない。	■ 個別の指導計画や職員会議後のクラス状況報告から個々の特性理解に努める。	■ 具体的な特性理解ができるようLD専門員やSC・SSWの指導をうける。 ■ 外部研修に積極的に参加をし、特別支援についての理解を深める。	■ 職員とSCやSSWとの情報共有はまだ完全ではないが、関わる先生方の指導で、大きな問題もなく学校全体としては落ち着いている。 日程の関係もあるが、外部の教員研修への参加がやや少なかった。	B	■ 何かあれば、SCやSSWの協力をおおき問題が大きくならないよう努める。 ■ 研修の機会があれば、積極的に声かけを行う。	■ SC・SSWと連携をとることにより、個々の特性理解に努めることができた。	B	職員会議の場で、できるだけ詳しく情報共有し全職員が統一した対応をしていくことが必要である。

【教科】

国語	言語活動を重視し、思考力、判断力、表現力を高める必要がある。また、新テストに対応した授業・指導方法の研究も必須である。	■ 言語活動及び思考力、判断力、表現力に重点をおいた授業実践と、新テストに向けた研究を行う。	■ 言語活動及び新テストで求められる力に重点をおいた授業とその批評会を実施し、次の課題を見つける。 ■ 教科指導に関わる研修に参加し、情報を共有する。	■ 新テストの対応力をつけるための定期考査の作成や、記述の機会を増やし、主に表現力と構成力を養うよう努めた。	B	■ 研修へ参加し情報を共有する。 ■ 生徒の実態を把握しながら各自の表現力が向上するような添削やアドバイスを行う。	■ 中高共に新課程に向けた研修に参加し、教科内で共有することで言語活動や新テストへの認識を深めることができた。	A	新課程を見据えた指導技術の向上。
社会 地歴 公民	10月に模擬投票を実施し、11月にはディベート大会を実施した。	■ 高校生を対象に主権者教育を充実させる。	■ 授業で冊子、「私たちが拓く日本の未来」を使い理解を深める。 ■ 外部機関と連携し主権者教育を実施する。	■ 「私たちが拓く日本の未来」を使用した座学の授業を実施した。	B	■ 納税者としての自覚を促すための租税教室、税に関するディベートを実施する。	■ ディベート活動を実施したことで、主権者、納税者としての自覚を高めることができた。	B	来年度は今年度実施できなかった模擬投票も取り入れたい。
数学	2019年度の高校2年生からが大学入試共通テストの対象学年であり、プレテストの分析を行った。	■ 大学入試共通テストへの対応を進め、私大・国公立大2次試験の情報収集、研究を行う。	■ 共通テストの問題分析を通じて、対策を研究する。 ■ 新テストにおける個別大学の動向に注視し、説明会等へ積極的に参加する。	■ プレテストの分析から共通テストで予想される出題形式を鑑みて、授業では様々な別解を紹介した。また、定期考査にも傾向に即した記述問題を取り入れた。	B	■ 問題の解法を指導する際に正解だけでなく誤答も紹介し、間違いの理由を考えさせる機会も設ける。 ■ 新制度入試での2次試験・私大入試についても、さらに情報収集に努め、対応していく。	■ 共通テストでの記述問題はなくなったが、授業では様々な考え方、解法を扱うなどして、生徒の思考を刺激し、学びが深まるような指導を心掛けた。	B	授業で問題解法について話し合う時間を設ける。また、学習内容が実生活に活用されているような問題にも取り組ませる。

	2019年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2018年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
理科	教員がICTアクティブ・ラーニングの研修を受けて、利用方法を学んだ。	■ 中学では研修で学んだICTやアクティブ・ラーニングの活用方法を実践していく。	■ ICT(タブレット等)を使って、アクティブ・ラーニングの授業を実施する。 ■ グループ活動をとおり、お互いの考えを発表し、生徒同士で評価をさせる。	■ ICTを利用した授業は、少なかったが、実験を通じたグループ活動の中で、お互いの意見交換をしていた。	B	■ ICTで利用出来るアプリが様々あるので、利用して授業で活用する。 ■ 理科は実験での、グループ活動を更に活発にしていく。	■ 実験など授業の状況によっては、活発な意見交換を実施することができた。また、ICTを活用しての授業もある程度実施することができた。	B	ICT環境を整えて、活発な利用ができるように、教員も学んでいく。
英語	パフォーマンステストを行うなど、英語コミュニケーションへの意欲を喚起する。	■ 生徒の英語に対する関心や英語を運用する機会が増えるような授業を工夫する。	■ ALTと協力してパフォーマンステストを実施し、生徒の英語運用力を高める工夫をする。 ■ 進路指導部と連携して、生徒の英語への関心を引き出すような出張講義を企画する。	■ 各学年で、週に1回のALTとのチームティーチング授業は定着してきた。パフォーマンステストも一部取り入れることができた。	B	■ 全学年でパフォーマンステストを実施するために、ALTと連携をとって授業計画を立てる。 ■ 出張講義を後期に行うために調整する。	■ 各学年で、週1回のALTとのチームティーチング授業を行い、英語コミュニケーションへの関心・意欲を喚起する工夫を行った。パフォーマンステストの各学年実施についてはもう少し工夫が必要である。	B	ALTと共により効果的に授業を進めていけるように教科内で授業の在り方を検討する。パフォーマンステストやその評価方法も具体的に設定する必要がある。
保健体育	積極的に授業に参加できている。ケガを予防する意識が高まっている。	■ 授業の中で生徒の主体的活動を増やし、思考力や判断力を養う。	■ グループ活動を多く取り入れ、課題を解決する能力を高める。 ■ ゲストティーチャーを活用し各単元でより発展的活動を体験できるように授業内容を工夫する。	■ 授業開始の挨拶前から、ランニングや体操を体育委員が中心になって始めさせることが出来ている。球技では審判・スコアラー・計時等を生徒で分担し主体的に学習を進めることができた。	B	■ 実技活動の中で思考力を高めるために、グループでの話し合いができる授業展開をする。 ■ 各単元でより発展的活動(ダンス、銃剣道など)を体験できるように授業内容を工夫する。	■ 体育委員を中心にすばやく準備体操やランニングが出来た。バドミントンやバレーボールなどにおいては試合の進め方をグループで話し合っ決めていくなど、生徒が役割分担して主体的に授業を進めることができた。	A	主体的な活動を行うために、生徒が考えて授業ができるように工夫していく。体育の中での思考力の育成にも取り組んでいく。
技術家庭科	日常生活において、ものづくり、衣・食・住などに関する体験に乏しい。	■ 学習活動や実習で得られたり、知識や体験をこれからの生活に生かしていけるようにする。	■ プレゼン発表や調理実習をグループで実施し、方法、理由を考えさせる機会を設ける。	■ プレゼン発表や調理実習、野菜の生育観察を通して、理由を述べながら自分の意見を説明することができた。	A	■ より深い学びになるように、事象の説明、自分の意見やその理由を述べる機会を設ける。	■ 学年でのプレゼン発表やレポート提出による新たな課題に取り組むことができた	A	学習活動や実習で得たことを生かしていけるよう指導したい。
情報	目的に応じて取得した情報を十分理解し、ルールに基づいてプレゼンできるようにする。	■ 目的に応じて取得した情報を十分理解し、ルールに基づいてプレゼンできるようにする。	■ プレゼンを通し、情報の収集・判断・表現・処理・創造・発信・伝達という流れを体験させる。 ■ 機器の操作技術を習得する。	■ 班に分かれ、テーマごとに発表の準備作業を実施している。	B	■ パワーポイントにまとめる進捗状況は各班に差があり、放課後を利用するなどして進捗状況を揃える。 ■ 操作が苦手な生徒にもアドバイスをしながら、機器に接する時間を増やす。	■ 班ごとにパワーポイントで編集して発表が行えた。当初、各班で1回の発表のところ、班編成を変えて発表を行い、計2回の発表を行えた。	A	次期学習指導要領からプログラミングの学習をする必要がありその対策が必要。
音楽	楽曲分析の授業においては、知識として学ぶことはできたが、それを実際の演奏や表現に生かすことができなかった。	■ 音楽の様々な側面を知覚し、感性を高め、自分の思いやイメージを音や音楽によって伝えることができるようになる。	■ 様々な国・年代・ジャンルの音楽を鑑賞し、その音楽についての理解を深める。 ■ 音楽も含め、様々な媒体(絵画や詩など)から感じたイメージを、自分なりの音で表現するような授業を行う。	■ 曲に対する自分のイメージを、まずは色彩や絵で表現し、そこからどのように音楽表現をするかを考えて演奏することで、以前よりも自分の思いやイメージを音楽によって伝えることができるようになった。	B	■ 表現についてさらに深く考えることが出来るよう、音楽史や作曲法に関しての理解を深める。 ■ 独奏・独唱の機会を増やす。	■ 和楽器の演奏を含め、合唱・合奏全ての演奏において、多くの生徒は課題の曲を楽譜通りに演奏することが出来るが、その曲を自分なりに解釈したり、自由に表現する力が乏しい。	B	演奏の際に教師の指示に従うだけではなく、生徒一人一人がその音楽について主体的に考え、表現や演奏に生かすことが出来るよう、指導方法を見直す。
美術	題材ごとの基礎・基本と応用力の見極めをある程度は確実にしていく事が出来、制作時の指導・助言を適時実践していった。	■ 題材間のつながりや考えながら学習内容を吟味し再構築していく。	■ 題材間のつながりや考えながら学習内容を吟味し、再構築していく。 ■ 吟味した学習内容で、制作時の指導・助言を適時実践していく。	■ 個々の題材については、学習内容を深めることができたが、題材間のつながりまで吟味し、再構築するところまでには至らなかった。	C	■ 題材間のつながりを一層意識し、再構築していく。 ■ 制作時の指導・助言をクラス全体と個別指導のバランスを図りながら適時実践していく。	■ 個々の題材については、学習内容を深めることができたし、題材間のつながりまで吟味し、再構築していくことがある程度出来た。	B	題材間のつながりまで吟味し、再構築した学習内容での授業展開を実践していく。

【学年】

	2019年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2018年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
高校3年	模試の全国偏差値では、第一志望の目標ラインに届かなかった者が多かった。	■ 全員で進路実現。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 年度はじめに、全員がセンター試験を受験することを意識づける。 ■ 個人面談の中で、実現可能な合格イメージをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「全員で進路実現」という目標を度々繰り返し、意識づけた。 ■ 個人面談の中で現実味のある進路や受験方法を選択させることが概ねできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個々の目的に応じた課題に取り組みさせる。 ■ 過去問題の演習と添削に力を入れる。その都度、基礎を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な情報を収集して、個別の生徒に合った進学先を提示できた。 	B	次年度の高3生は新テストを意識した授業や考査を実施する。
高校2年	志望進路の探究とそれに向かって備えるべき力が必要である。	■ 探究学習によって課題発見及び課題解決に繋がる力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 探究学習の各場面でどのような力を身につけるか(目標)を明確にした上で活動させ、定期的に自己評価させる。 ■ グループ活動を中心とし、役割を明確にした上で責任をもって取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 進路探究については各自の目標と課題について考えられるようになった生徒が増え、具体的な行動に繋がれる生徒が増えてきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域課題探求を進めるにあたり、目標設定をし、各自の活動に取り組ませる。 ■ 研修旅行及び探求成果発表会に向けて各班の活動の中で各自の責任を果たせるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課題発見及び課題解決する技能を身につけることができた ■ と評価した生徒が80%以上だった。 	A	身につけた力を教科学習の思考や受験準備につなげる。
高校1年	明確な進路意識を持っている生徒はまだ少ない。	■ 文理選択を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夢ナビ参加、進路適性検査、大学見学などを通じ進路意識を高める。 ■ 自力で、情報収集をしっかり行うことを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夢ナビに参加し、生徒は各自の興味・関心に応じて、講義を選び刺激を受けたようである。 ■ 進路適性検査も実施した。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10月の平田合宿でこの検査をもとに講演をしていただく予定。 ■ 総合的な探究の時間を使って、文理選択のポイントを指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 夢ナビへの参加や平田合宿での講演会、総合的な探究の時間などを通じ文理選択を行った。 	B	より具体的に進路を考える。
中学3年	探究学習ではテーマ設定、情報収集、プレゼンテーションソフトの使用方法、発表の流れを確認できた。	■ 海外研修旅行に向けて課題を設定し、グループで協力しながら、探究する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国人に紹介したい日本についてテーマを絞り、グループごとに役割分担し探究を深める。 ■ 英語でのプレゼンテーションを行い様々な方の評価を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 例年よりも早くテーマ・班を決め探究学習を進めていくことができたが、発表ができる段階に至っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ■ インターネットや書籍が中心になっている部分もあるので、必要な部分は訪問・電話取材をし、内容をより深めていく。 ■ プレゼンテーションのスライド、原稿作りを英語科と協力をして進める。発表の場を作り、互いに評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 台湾研修旅行では大学生に向けて英語でのプレゼンテーションを成功させることができた。 ■ グループで協力しあい、台湾の方々にも山陰、米子について興味を持ってもらえる発表ができた。 	B	早くテーマを決め、活動する事が出来たが、情報収集の際に、本やインターネットに頼ることが多かった。プレゼンテーション作成に時間がかかってしまい、フィールドワークやゲストティーチャーを呼ぶ機会を増やす。
中学2年	フィールドワーク等を通して、地域活性化プロジェクトを提案することができた(探究学習)。	■ 職場体験を通して、企業や事業所の課題解決につながるアイデアを提案する(探究学習)。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 職場体験が、課題の解決や探究の過程に位置づくよう、事前学習・事後学習を計画・実施する。 ■ 情報を整理・分析し、表現するなどの活動を積極的に行い、課題解決に向けて主体的・創造的な態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 4月当初から計画的に探究学習を進めていき、7月の大山宿泊研修におけるフィールドワーク成果発表会では、各グループが各企業や事業所の課題解決につながる充実した発表を行い、外部からも高い評価をいただいた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引き続き計画的に学習を進め、必要に応じて学習内容を追加し、課題解決につながるアイデアを生徒が提案できるよう、指導する。 ■ 職場体験の事前学習として環境学習を取り入れると共に、事後学習も重視し、次年度以降の進路指導につながるよう、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前学習・事後学習も含めて充実した学習を積み重ね、企業や事業所の課題解決につながるアイデアを具体的に提示することができた。 ■ 生徒による年度末の自己評価は概ね高く、生徒自身も学習成果を実感していた。 	A	次年度も今年度同様、年度当初から1年間の計画を綿密に立てつつ、指導を進めていくことが重要である。
中学1年		■ あいさつ・時間を守る習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教員が早めに教室へ向かい、朝礼・授業でのチャイム席を守るよう指導する。5分前から朝読書を開始するよう指導する。 ■ 始業・終業時のあいさつをきちんとするよう指導する。(姿勢を正す、学級委員は全員の姿勢が整ってからあいさつをするなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 朝礼や授業開始時のチャイム席は守れている。朝読書の5分前開始が出来ていないときがある。 ■ 始業のあいさつに関しては概ね出来ている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教員もできる限り早めに教室に向かい、生徒への呼びかけを行っていく。 ■ 一人一人がより大きな声であいさつができるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 朝礼5分前着席・朝読書開始が定着するなど、時間を守るようになってきた。 ■ 始業・終業時のあいさつに関しては概ねできているが、その他の場面で自発的にあいさつができる生徒は少ない。 	B	あいさつを通してコミュニケーション力の向上につなげていきたい。そのためにも、より大きな声であいさつできるようになること、同学年以外の生徒や教員に対しても自発的にあいさつができるようになることが次年度の課題である。